



2012年4月16日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2012年3月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	3月度
百貨店事業	9.7（10.4）
スーパーマーケット事業	▲15.6
卸売事業	1.5
クレジット事業	10.3
その他事業	33.0
連結合計	6.7

（注）百貨店業合計の（ ）内は、博多大丸長崎店（2011年7月31日営業終了）を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店事業

- ・3月度の百貨店事業の売上高は、婦人ブラウス、ワンピースなど春物ファッションが活発に動き、ラグジュアリーブランドや時計・宝飾品など高額品も好調に推移したほか、前年に東日本大震災の影響を強く受けた首都圏店舗が大幅増となったこともあり、大丸松坂屋百貨店合計では対前年11.0%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同10.4%増となった。なお大丸松坂屋百貨店、百貨店事業ともに、12ヶ月連続で前年実績を上回った。

2) スーパーマーケット事業

- ・ピーコックストアは、前年震災後に保存食品や生活雑貨を中心とした生活必需品の大幅な需要増があったことの反動に加え、閉鎖店舗（みさと店など計3店舗および1事業所）の影響もあり、対前年▲15.6%減となった。地区別では、首都圏が対前年▲18.4%減、関西地区が同▲9.3%減、中部地区が同▲14.5%減であった。

3) その他

- ・卸売事業の大丸興業は、食品、金属樹脂加工品などが好調に推移した。
- ・クレジット事業のJFRカードは、加盟店手数料収入などが順調に伸びたこともあり2桁増となった。
- ・その他事業は、商業施設などの受注が好調であったJ.フロント建装が牽引した。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2012年3月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	3月度	
	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	0.4	3.0
大丸 梅田店	29.5	33.4
大丸 東京店	52.8	41.5
大丸 ららぽーと横浜店	19.0	19.0
大丸 浦和パルコ店	20.2	26.7
大丸 京都店	1.9	2.4
大丸 山科店	▲3.2	▲4.2
大丸 神戸店	5.9	1.0
大丸 新長田店	▲2.4	▲5.9
大丸 須磨店	0.1	▲1.9
大丸 芦屋店	▲0.0	▲7.7
大丸 札幌店	9.6	2.6
松坂屋 名古屋店	3.1	10.5
松坂屋 上野店	30.0	23.7
松坂屋 静岡店	9.2	16.7
松坂屋 銀座店	26.5	57.4
松坂屋 高槻店	2.5	2.4
松坂屋 豊田店	5.3	6.5
大丸松坂屋百貨店合計	11.0	13.0
博多大丸	7.6	2.1
下関大丸	1.4	▲4.4
高知大丸	6.2	14.7
百貨店事業合計	10.4	-

(注) 博多大丸および百貨店事業合計の前年は、博多大丸長崎店（2011年7月31日営業終了）を除く。
前年に博多大丸長崎店を含めた3月度の博多大丸合計は対前年▲0.8%減、百貨店事業合計は同9.7%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	3月度
紳士服・洋品	14.7
婦人服・洋品	15.5
子供服・洋品	4.7
その他の衣料品	2.4
衣料品計	13.7
身回品	4.4
化粧品	6.1
美術・宝飾・貴金属	13.1
その他雑貨	▲1.9
雑貨計	8.2
家具	▲11.2
家電	23.6
その他の家庭用品	14.6
家庭用品計	7.7
生鮮	1.6
菓子	15.8
惣菜	6.2
その他食料品	0.5
食料品計	7.8
食堂・喫茶	24.1
サービス	▲7.5
その他	19.9
合計	11.0

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、スプリングコートやワンピースなどの春物ファッションが活発に動いたことに加え、ラグジュアリーブランドも好調であった。紳士服・洋品は、ネクタイ、ワイシャツ、革小物などがフレッシュャーズ需要により伸ばした。身回品は、ハンドバッグ、婦人靴などが春の新作を中心に好調であった。雑貨は、化粧品の動きがよかったことに加え、美術・宝飾などの高額品も2桁増となった。食料品は、梅田店が増床後の好調を持続するとともに、ホワイトデー商戦も盛況であった。